

## 農業政策研修会を開催

### — 農業者の所得増大に向け農業政策の有効活用を —

JAの営農農政担当者を対象とした農業政策研修会を2月3日（金）に開催し、9JA50名が参加しました。この研修会では、政府・与党が昨年11月に「農業競争力強化プログラム」を取りまとめるなど、農業者の所得増大に向け各種政策が打ち出されようとしているため、「農政をめぐる情勢」、「平成29年度農業関係予算の概要」、「TPP、日EU・EPA交渉をめぐる情勢」および「平成30年産以降の需要に応じた米づくり」の4項目について行い、営農農政担当者の資質向上を図りました。

「農政をめぐる情勢」では、昨年秋の規制改革推進会議・農業WGの「農協改革に関する意見」に対するJAグループの対応とその結果、および昨年11月に決定した「農業競争力強化プログラム13項目」について説明するとともに、JA自己改革の緊急性・必要性・重要性について訴えました。

「平成29年度農業関係予算の概要」では、国の予算決定までのプロセスについても触れ適時適切な農政活動が大切であること、昨年度の当初予算額を20億円下回る2兆3071億円となったものの事業費ベースでは43億円増となっていること、28年度補正予算と合わせると中山間地対策や土地改良事業にも十分な予算が計上されていることを説明し、さらに29年度から始まる新たな収入保険制度等について研修しました。

「TPP、日EU・EPA交渉をめぐる情勢」では、米国トランプ大統領がTPPから離脱を宣言したことにより発効は困難となったことや昨年12月に急浮上した日EU・EPA交渉における農政課題について解説しました。

「30年産以降の需要に応じた米づくり」では、昨年12月の県農業再生協議会の臨時総会で、生産者が今後も安定的に米生産を行えるように関係団体が一体となって取組むことを決定した経過や、その考え方に記載した情報提供の具体的な方法を3月までには提示する方向で関係機関と検討中であることを説明しました。

この研修を契機として、生産現場で農業政策を有効活用し「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に役立てることや、JA自己改革の一層の推進を図るよう期待いたします。



【挨拶する大出部長】



【研修する中央会職員】

## みんなで考えよう!食と農の重要性

— 『食と農を考えるフォーラム』を開催 —

2月23日(木)、食と農を考えるフォーラムを開催し、一般消費者、JA・関係団体等約400人が参加しました。本フォーラムは、人口減少や高齢化、食の多様化により食料需給が大きく変化する中、国内農業や米を中心とする国産農畜産物の需要拡大の重要性およびJAの果たす役割について、消費者の理解促進を図るため実施しました。

情勢報告では、JA中央会の猪瀬専務が、日本の食料自給率が5年連続で39%という低い水準で推移している一方で、年間500~800万トンの食品ロスが発生していること、また、1975年頃の日本食が健康維持に有効であることを紹介しました。

基調講演では、(一社)日本健康食育協会 柏原ゆきよ氏が講演し「ご飯を食べると太るというのは誤り。元気に若々しくなるためには、1日に食べるご飯は150g×5杯(約2合)を食べること。」と話し、ごはん食のメリットを栄養学の観点からわかりやすく説明しました。



【フォーラムの様子】



【柏原 ゆきよ 氏】



【多くの消費者に参加いただきました】



また、農業者やJAから、食と農に対する意見・考え方、日ごろの取り組み等を発表しました。



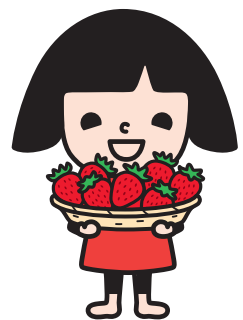
【写真左から：青年部連盟（古橋 氏）、集落営農法人（株）まほろば農場（大木 氏）、JAなすの（営農部 吉田 氏）、JA全農とちぎ（米麦部 北條 氏）】

フォーラム閉会后、会場外では、JAうつのみや、JA全農とちぎ（園芸部・生活部）の協力のもと地元農産物の直売等を行い、大盛況となりました。



【販わうイベント会場の様子】

JAグループ栃木では、今後も引き続き国産農畜産物の重要性を消費者に積極的にPRするとともに、理解促進にむけた取り組みを行っていきます。



3つのC（①C hange <sup>チェンジ</sup>（変革）・②C hallenge <sup>チャレンジ</sup>（挑戦）・③C reate <sup>クリエイト</sup>（創造））で販売品取扱高目標の達成！

## J A 栃木女性会 フレッシュミズ交流会を開催

J A 栃木女性会は、1月27日（金）、栃木市でフレッシュミズ層（20～40代）のネットワークを築くために交流会を開催し、J A 女性会の会員など24人が参加しました。



【蔵の街遊覧船に乗車する参加者】

交流会は昨年から開催しており、今年度は『蔵の街栃木市内バスツアー』と題して、蔵の街観光館や蔵の街遊覧船、岩下の新生姜ミュージアムなど、栃木市内の見学のあと交流会で参加者の相互交流を深めました。

交流会の実施にあたっては、各J A 女性会から実行委員を募り、フレッシュミズ会員9名が集まり実行委員会を組織しました。

実行委員会では、9月から内容の検討を行ってきました。

実行委員長を務めたJ A はが野二宮地区女性会の山中映枝さんは、「他のJ A のフレッシュミズと触れ合える機会はあまりない。親睦を深め、つながりを作るいい機会になった。今後も続けていきたい」と話していました。

中央会はJ A 栃木女性会と連携し、今後もフレッシュミズ層の会員拡大に向けた取組みを進めていきます。

交流会の様子は、J A 栃木女性会のFacebookページ（栃木フレミズ）で発信していますので、ぜひご覧下さい。



【参加者全員による写真撮影】



## J A栃木指導員連盟全体交流集会を開催 —講演会・分科会を通して営農指導の課題を再認識—

J A栃木指導員連盟では、2月3日(金)に全体交流集会を開催し、約40名の営農指導員が参加しました。今年度は、講演会及び分科会を実施しました。

◎講演会：『失敗から学ぶ 失敗を活かす』組織デザイン代表 松崎 俊道氏



【質問をしながら講演する松崎先生】

講演では、松崎先生が、これまでの失敗や日々のコミュニケーション上の課題等を参加者に質問しながら、「失敗を活かして栄養とする発想法」や「コミュニケーションに必要なもの」等について講演されました。参加者からは、「組合員との接し方について参考になった」「成功するには失敗から学ぶことであると感じた」「初心に戻り、対話のきっかけ作りに活用したい」等の声がありました。

◎分科会：担当分野(園芸、営農企画、米麦・畜産)にグループ分けし、意見交換



【諸課題について意見交換】

「産地維持発展のため、指導員として取り組むべきこと」「集落営農組織の取り組み」「新規就農者対策」等について、現状と課題、解決策を検討し発表しました。参加者からは、「他JA担当者との意見交換は今後の業務に活かせる」「各JA間の悩み、課題等が聞けて参考になった」等の意見が寄せられました。

交流集会終了後は、懇親会にて交流を深めました。組合員との対話を通して、営農の諸課題に対応していきます。

## 集落営農法人組織交流会を開催

—組織の存続・発展のために—

本県の法人化されている集落営農組織を対象として、2月7日(火)に集落営農法人組織交流会を栃木県担い手育成総合支援協議会と担い手サポートセンターの共催で開催しました。

交流会には、県内の15法人の代表者・役員等と関係機関の担当者ら55名が参加し、組織の存続も考えた後継者育成や法人が抱えている課題解決について意見交換を行いました。

初めに、組織の役員や後継者等・法人組織の永続性に関する事前アンケート調査の結果報告を行いました。

ほとんどの組織で後継者問題を抱えており、今後の後継者育成に力を入れていく考えをもつ組織が多くありました。また、高齢化が進んでいる一方で、50歳未満の構成員がいる組織も多くなってきており、法人組織のメリットを活かし若い年齢層の構成員も確保していることがわかりました。



【あいさつする生澤センター長】

意見交換の中では、後継者育成には10年かかると考えている組織もあり、参加者からは、現在の取組状況や今後の取り組みなどについて活発な意見・質問が出され有意義な交流会となりました。



【活発に意見を出し合う法人の代表者達】

今後もこのような交流会を開催し、県内の法人組織の輪を築きながら、担い手が抱えている問題を解決するための一助になるよう支援していきます。



## 第58回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会に特別協賛

### －JAグループ一体的広報の実践－

中央会・連合会は、JAグループ栃木の一体的広報として、1月29日（日）に開催された第58回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会に特別協賛しました。

今回の駅伝大会では、広報活動とおもてなし等の地域貢献活動に取り組み、中央会、農林中金宇都宮支店、全農とちぎ、共済連栃木の役職員50人が参加しました。

広報活動については、「JAグループ栃木」ロゴによる横断幕・手旗・選手ナンバーカード（ゼッケン）等によるPR、下野新聞特集紙面による広報、テレビ・ラジオ放送、「JAグループ栃木統一のぼり旗」の掲出、みんなのよい食プロジェクトのマスクやJA事業のパフレットの配布等、多彩な取り組みを行いました。

地域貢献活動（おもてなし）として県庁前広場では、来場者及び選手・大会関係者等に、特Aランクを受賞した県産「コシヒカリ」、「なすひかり」、「とちぎの星」の精米300g（3種類から1つ）、とちぎ和牛の焼肉（700人分）、「コシヒカリ」のおにぎり（1,000個）、豚汁（各800人分）を無料で配布しました。



【来場者に精米を配布】



【豚汁を受け取る来場者】

また、栃木市運動公園でも「コシヒカリ」のおにぎり（1,000個）を無料で配布したほか、ボランティアで小学生駅伝競走大会の走路誘導を行いました。さらにアトラクションとして共済連がドライビング・シミュレーターによる運転体験や介助犬デモンストレーションを行い多くの来場者が体験しました。4か所の中継所でもPR資材を配布しました。

なお、郡市町対抗駅伝、小学生駅伝ともに出場選手全員に特Aランクの精米3点セットをプレゼントしました。県庁前広場での配布等は、来場者、選手・大会関係者から大変喜ばれました。今後も中央会・連合会は、イベント等を通じて地域住民に対してJAグループのイメージアップを図っていきます。

## 経営者研修会を開催 —夢は大きく—途に—本道—

J A栃木専務常務会と中央会経営指導部は、第30回J A栃木県大会で決議した「創造的自己改革への挑戦～3か年運動」における「組合員のアクティブ・メンバーシップの確立」の取組みを促進することを目的に、2月10日（金）に経営者研修会を開催し、J A、連合会、専門農協の役員など約60人が出席しました。

冒頭のあいさつで高橋会長は、細やかな気配りや目に見えない「感動」によりお客様の心を捉える経営に学び、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、地域に必要とされる組織となることを参加者らに呼びかけました。

花の宿 松や 女将 臼井静枝氏を講師として招き、「夢は大きく—途に—本道」という題で講演を頂きました。

臼井氏は日光市の生まれで、鬼怒川温泉に3つの美術館（相田みつを心の美術館、日光竹久夢二美術館、日光人形の美術館）を設立し、文化振興、地域発展への取り組みに対して、平成18年に日本旅館の女将として全国で初めて黄綬褒章を受章しました。また、平成23年に日光市女将の会が設立され、初代会長をお務めになりました。

東京の奥座敷といわれる鬼怒川温泉郷も、バブルの崩壊で多くの旅館が倒産し、経営者も産業再生機構や外国資本に交代しています。しかし、「花の宿 松や」がそれを乗り越え、お客様から支持が続いた背景には、女将の竹久夢二の1枚の絵との出会いや相田みつを氏との交流、従業員と一緒に培った「おもてなしの心」がありました。

お客様に持ち帰っていただけるのは、目に見えない「感動」しかない、というコンセプトのもと、営業活動をしない経営を続けています。また、接客態度に加えて、従業員に対する誕生日メッセージなど、細やかな気配りで、来館するお客様はもとより従業員の心をとらえて離しません。

「生まれ変わっても旅館の女将になる」、「死んだら三途の川向こうで旅館を開くので、本日の参加者に立ち寄ってもらいたい」との話に、参加者から笑い声があがり、和やかな講演となりました。



【講演する臼井氏】



【とちおとめと栃木のバラを贈呈】



## 第59回全国家の光大会が開催される

2月15日(水)に広島県広島市で第59回全国家の光大会が開催されました。

本県からはJA・中央会役職員および女性会員ら21名が参加しました。

大会に先立ち、14日(火)に都道府県代表発表大会が開催され、記事活用体験発表の本県代表として、JAしもつけ女性会の大橋幸子さんが「家族の夢と『家の光』」と題し発表、東日本地区代表に選ばれました。



【発表を行う大橋さん】

大橋さんは、道の駅みかもの開設にあわせ「揚げ餅」を作り販売、売り上げを2千万円まで伸ばしている取り組みを発表し家の光協会会長特別賞を受賞しました。

また、第67回家の光文化賞(『家の光』普及率30%以上)の表彰も行われ、JAあいち尾東(愛知県)、JAしまね(島根県)、JA延岡(宮崎県)の3JAが受賞、併せて家の光文化賞促進賞(『家の光』普及率20%以上)には、JAいちかわ(千葉県)をはじめ4JAが受賞しました。これらのJAの取り組みは家の光誌上で順次紹介されます。

また、本県からは、『ちゃぐりん』愛読者拡大実績表彰(100部以上の増部・維持)でJAはが野、「家の光図書」記念品活用実績表彰においてJAなすのが表彰されました。

今後も、『家の光』三誌の普及・記事活用を通じて、組合員との情報共有を進めていくことが求められます。



【JAはが野の受賞(国府田専務理事)】



【JAなすのの受賞(菊地専務理事)】

## 平成28年度営農指導員資格認証(2級試験)の結果

平成28年度栃木県農業協同組合営農指導員資格認証の2級試験を1月27日(金)・30日(月)に実施し、64名が受験しました。

その結果、41名が合格となり、今年度の認証試験制度改正により合格となった4名と合わせて下記の45名が、中央会会長から認証されました。

### ＜平成28年度営農指導員資格認証2級認証者(45名)＞

#### ①28年度試験合格者

認証番号	所属 JA	氏 名
992	うつのみや	松 本 法 子
993	うつのみや	徳 岡 和
994	うつのみや	田 代 遼
995	うつのみや	結 城 浩
996	うつのみや	齋 藤 真 也
997	うつのみや	矢 野 智 弘
998	うつのみや	中 山 拓
999	うつのみや	小 林 恭 子
1000	うつのみや	手 塚 朋 哉
1001	うつのみや	増 渕 直 己
1002	うつのみや	山 吉 秀 和
1003	うつのみや	永 嶋 純 也
1004	うつのみや	野 澤 繁 雄
1005	うつのみや	松 原 悠 二
1006	かみつが	青 木 貴 宏
1007	かみつが	石 川 真 一
1008	かみつが	齋 藤 雄 史
1009	かみつが	福 島 俊 亮
1010	はが野	助 川 博 俊
1011	はが野	糸 谷 寛 之
1012	はが野	羽 石 雄 一

認証番号	所属 JA	氏 名
1013	はが野	荒 井 和 寿
1014	はが野	中 村 綾 佳
1015	しもつけ	齋 藤 千 寛
1016	しもつけ	小 島 力
1017	しもつけ	猿 山 道 之
1018	しもつけ	栗 田 裕 典
1019	しもつけ	別 井 弘 和
1020	しもつけ	高 山 仁 志
1021	しもつけ	福 島 貴 之
1022	おやま	安 生 登
1023	おやま	日下部 佑 太
1024	佐 野	秋 澤 忠
1025	足 利	坂 本 祐 里 佳
1026	足 利	青 山 哲 也
1027	しおのや	室 井 祐 輔
1028	しおのや	田 代 尚 史
1029	なすの	薄 葉 椋
1030	なすの	井 上 正 則
1031	なすの	伊 藤 雅 彦
1032	なす南	田 嶋 潤

#### ②認証試験制度改正に伴う合格者

認証番号	所属 JA	氏 名
1033	おやま	館 野 陽 一
1034	おやま	大 島 健

認証番号	所属 JA	氏 名
1035	おやま	日向野 陽 介
1036	なすの	鶴 野 光

# コンプライアンス通信 Vol.5

## －その取引、独占禁止法違反になりませんか？－

独占禁止法の目的は、「公正かつ自由な競争を促進し、事業者が自主的な判断で自由に活動できる」ことです。結果として事業者間の競争が起き、消費者から選ばれる安くて魅力的な商品の提供により、消費者の利益が確保されます。

法では①私的独占の禁止、②不当な取引制限(カルテル・入札談合)の禁止、③不公正な取引方法の禁止、④企業結合の規制が定められていますが、JAは商系事業者と異なり、協同組合活動を通じ小規模農業者が団結することで生活防衛や市場で有効な競争単位となることを目的としているため、共同購入・共同販売について①～④の規制を受けません(独占禁止法の適用除外)。

しかし、次のような違反行為は監督機関である公正取引委員会の調査・審査を経て、排除措置命令や課徴金納付命令が出される他、法人として罰金に処せられることもあります。

### 【行ってはいけない取引】

(1) 不当な取引制限：他のJAや事業者と共同して価格や数量の制限等を行うこと(カルテル)。

### (2) 不公正な取引：

①取引拒絶：不当に事業者が特定の事業者との取引を拒絶すること。

部会規約で全量出荷を求めたり、規約に記載がなくても部会員資格の剥奪等を課すこと。

②事業者団体における差別的取扱い：部会員に対し共同施設の利用を制限すること。

③不当廉売：商品を不当に低い価格で継続して販売して他の事業者の事業活動を困難にさせること。

④抱き合わせ販売等：貸出に際しJAの他の商品または役務を貸出先の意思に反し強制する行為など。

⑤排他条件付取引：競争関係にある商品を取り扱わないことを条件に取引を行うことなど。

⑥拘束条件付取引：貸出の条件として貯金の開設を要求するなど、取引相手の事業活動を不当に拘束する条件を付す取引等。

⑦優越的地位の濫用：取引上の優越した地位を利用して利用者の自由な意思に基づかない条件や方法を強制する行為

### (3) 私的独占の禁止

公正取引委員会は、現在、農業分野における独占禁止法違反に係る専用の情報提供窓口の設置の他、農業分野の調査を実施するための「農業分野タスクフォース」の設置等、農業・JAに対する締付け強化をはかっています。

昨年5月にはJA土佐あきで、10月にはJAおおいたが独占禁止法違反の疑いで公正取引委員会が調査に入りました。

JAグループ栃木では、今後、生産部会・JAの事業運営で問題取引がないか「チェックリスト」を用い各JA・生産部会で確認をしていただくとともに、問題のある行為が確認された場合、早急な是正をする必要があります。

法に触れる取引がないよう職員みんなで気をつけましょう。



## 教育センターレポート

### —高等学校「農業・JA教育研究会」を開催—

1月24日（火）に高等学校「農業・JA教育研究会」を開催し、県内の農業高校から19名の先生方の参加のもと、現地研修や意見交換等を行いました。

当研究会は、県内農業高校における農業・JA教育の充実と、副読本「私たちとJA」（全中発行）等の活用促進をはかることを目的として、栃木県高等学校教育研究会農業部会とJA栃木中央会の共催で毎年開催しているものです。

今年は、①JA全農いばらきが設置・運営している「ポケットファームどきどき茨城町店」における直売所等の直販事業を通じた生産振興の取組み、②二宮尊徳資料館（真岡市物井）において、農村復興に向けた尊徳の協同の精神に基づく報徳仕法の実践経過、③JAはが野の益子観光いちご団地（ハウス111棟、栽培面積3.6ha）の概要や産地化の取組みなどについて現地研修を行いました。さらに、宇都宮白楊高校において、「私たちとJA」等の活用状況や、JAグループの自己改革の取組みなどに関する情勢報告を行いました。

参加された先生方からは、「JAグループの取組みの現状と課題を知ることができた」、「教育現場で活かせる貴重な情報を得ることができた」、「生徒たちに現場の取組みの実態を踏まえて伝えることができる」、「10JAの事業量や取扱品目等を紹介したパンフレット等の資料は、教科書でカバーできない情報が盛り込まれており、授業に活用している」などの感想が聞かれました。

また、TPPや農協改革等に関する新聞やテレビの情報が断片的で全体的な動向や問題点の把握が難しいため、タイムリーな情報提供をお願いしたいなどの要望が出され、今後も継続して研究会を開催していくことを確認しました。



【直売所（JA全農いばらき）での現地研修】



【益子観光いちご団地（JAはが野）での現地研修】

## —新入職員地区別交流会を開催—

新入職員地区別交流会を、2月3日(金)にJAなすの大田原総合センター(県北地区)、8日(水)にJA栃木教育センター(県南地区)、14日(火)にJAかみつが日光営農経済センター(県中地区)の3会場で開催し、9JA146名が受講しました。

この交流会は、JA間の交流をはかるとともに、組合員とのコミュニケーション等について学び、2年目に向けて意欲的に仕事に取り組む姿勢を養うことを目的に実施しました。

交流会では、①我がJAの自慢、②組合員訪問、③2年目に向けての目標設定を行いました。「我がJAの自慢」では、JA毎に自分のJAの特徴や自慢できることについて発表しました。また、「組合員訪問」ではワールドカフェ(グループメンバーを入れ替えての討議)により「組合員との思い出」をテーマに受講生の間で意見交換を行いました。その後、JA職員が組合員宅を訪問するという場面設定でグループ毎にロールプレイングを行い、組合員とのコミュニケーションについて学びました。

受講者からは「他JAの職員と交流ができて良かった」「組合員訪問の際に役立つコミュニケーション方法を学べた」などの感想が聞かれました。

今回の交流会で学んだことを生かして、2年目に向けてさらなる飛躍を期待します。



【集合写真(県北地区)】



【ロールプレイングの様子(県南地区)】



【グループ討議の様子(県中地区)】

## －新任役員（理事・監事）フォロー研修会を開催－

新任役員フォロー研修会を2月17日（金）に開催し、改選のあった1JA（はが野）の新任理事・監事13名が参加しました。

この研修会は、JA運営に関する課題等について研修し、経営者の一員としての資質を高めることを目的としています。研修会では、「農政改革と今後のJAの対応について」と題し、宇都宮大学農学部教授の秋山 満氏からご講演頂きました。

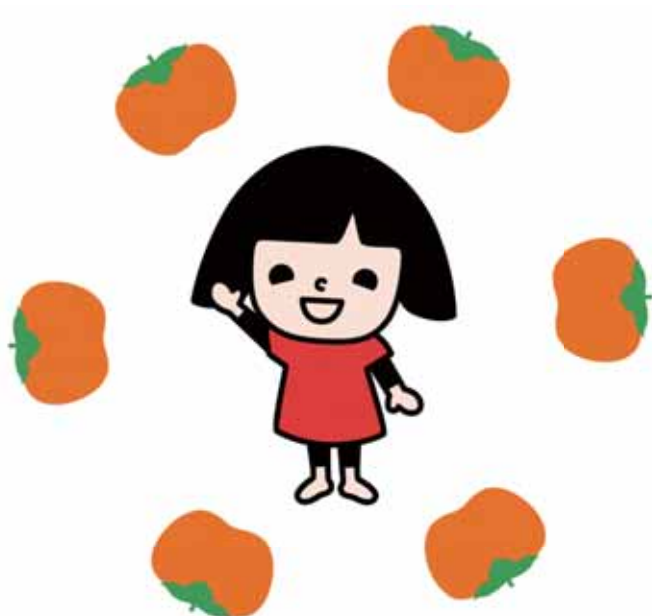
秋山教授は、農政改革および農協改革の背景と今後の方向性について話し、今後栃木県の農業を発展させるためには、マーケット・イン（作る農業から売る農業へ）と、本県の強み（首都圏に近い、耕種・畜産・園芸のバランスが取れている、高い経営・技術力がある、JAの結集が高い）を生かした農業の展開が大切であると話しました。

そのためJAは、

- ①地域農業のマネージャー機能（企画・立案・調整）
- ②農業生産のサポート機能
- ③イノベーション機能（新規開拓・事業育成）

を担って欲しいと期待を話しました。

参加者からは、「農政改革や農協改革の背景がよく分かった」「消費者・量販店はどのようなものを欲しがっているか知ることが大切」などの意見が聞かれました。今回の研修で学んだことを、今後の理事・監事の職務に生かされることを期待いたします。





J A教育センター主催の3月・4月の研修会等の開催予定は下記のとおりです。

日 程	研 修 会 名	対 象 者
3月16日	農協監査士養成研修会④	29年度農協監査士試験 受験予定者
4月10日～14日	新入職員業務基礎研修会	新入職員
4月17日	農協監査士養成研修会⑤	29年度農協監査士試験 受験予定者
4月21日	支所・支店長研修会(第1班)	新任の支所・支店長
4月28日	農協監査士養成研修会⑥	29年度農協監査士試験 受験予定者

※受講申込は、J A栃木教育センターまで。

(TEL : 028-616-8560 FAX : 028-616-8594 E-mail : kyouiku@tcchu-ja.or.jp)



消費者へ農業理解促進の一環として、下野新聞に毎月1回「ふおーyou とちぎJAプラザ」を掲載しています。

ここで、アンケートを実施し、紙面に対する感想が寄せられていますので、一部ご紹介します。今後の事業取り組みの参考にして下さい。

### ～12月18日掲載 テーマ 鍋料理を彩る名脇役「春菊」～

#### 【春菊について】

- ・なかなか食べる機会がなかった春菊ですが、特性を知り、これからはどんどん食べたいと思います。
- ・鍋料理には欠かすことの出来ない春菊ですね。大田原の印南さんが一生懸命に作っている姿ご苦労様です。今後もおいしい春菊を作ってください。県内産の食材を使用するよう心がけています。
- ・春菊が栄養豊富な野菜だということを知ることが出来ました。冬にぴったりの食べ物ですね。お役立ちレシピを参考にして息子にもたくさん食べさせたいです。春菊のチヂミ、おいしそうで良いアイデアですね。
- ・春菊は良く食べているけど、あまり詳しくは知らずだったので勉強になった記事でした。お役立ちレシピの春菊のチヂミも春菊好きの我が家の子供たちは絶対パクパク食べると思うので近々作る予定です。レシピ毎回楽しみにしています。
- ・生産者の苦労や努力が商品に表われていると思い、食べてみたいと思いました。

#### 【JAの取り組みについて】

- ・県内の農家の方々の取り組みが見えて、県産の農産物をますます身近に感じるようになってきました。
- ・JA足利さんの様々な取り組みも素晴らしいです。小学生から若者、老人まで対象とした取り組みは、参加者が喜ぶだけでなく、JA足利さんの利用者・応援者が増えることでしょう。
- ・「ふおーyou」毎月楽しみにしております。最近、若い世代の方が就農し、日夜研究を重ねていることに、深く応援したくなります。夢を持ち続ける姿勢に自分の身を正さなくちゃと前向きになれる。
- ・JAグループ栃木の取り組み、野菜の由来や栄養、食に通じての細やかな心配りが勉強になります。

# 理事会だより

平成29年2月10日(金)に第11回理事会が開催されました。

## (協議事項)

(1) 第66回臨時総会の開催について

平成29年3月30日開催の臨時総会に提出する議案について承認されました。

(2) 本県における当面の自己改革の取り組みについて

29年度を「取組強化期間」と位置づけ、実践する内容について承認されました。

(3) 平成30度中央会職員採用について

平成30年度の採用について承認されました。

(4) 栃木県JAバンク支援制度規程第8条に基づく積立金の平成29年度積立について

平成29年度JA別積立額が承認されました。

(5) 参事の退任及び選任について

参事に退任・選任が承認されました。

## (報告事項)

(1) 平成29年開催通常総代会提出議案について

(2) 平成28年度決算処理スケジュール(例)について

(3) JAグループ栃木大規模災害(BCP)統一訓練実施結果について

(4) 平成28年度農協職員資格認証試験結果(特級)について

(5) 「生産履歴報告書作成支援システム」の開発について

(6) 生産履歴記帳運動の啓発に係る標語の審査結果について

(7) JAグループ栃木担い手サポートセンターの取り組みについて

(8) 下野新聞JAプラザふぉーyou読者アンケート結果について



平成29年3月主要行事予定表

1	水	総務企画部	担い手サポートセンター	農業くらし推進部		経営指導部	電算企画運用部	電算開発部	教育部	全国監査機構 栃木県監査部
				農業ライン	くらしライン					
1	水	経営会議	TACアグリビジネススクール®						合同就職説明会	
2	木		集落営農リーダー研修会							
3	金		JJA出資法人交流会			資産査定実務者研修会				常勤監事会議
4	土									
5	日									
6	月									
7	火									
8	水			女性のJA運営参画研修会				OTMオベ研 かみつが①		
9	木					JA巡回(決算) うつのみや かみつが、佐野、足利				
10	金	全中表彰式・総会	市町再生協議会事務局長等会議							
11	土									
12	日									
13	月	理事会、運営委員会等・監事会 全中との意見交換会				JA巡回(決算) しもつけ、しおのや、なすの			JA巡回(教育事業の意見交換)	
14	火					JA巡回(決算) はが野、おやま、なす南				期末監査(3/14~22) うつのみや・しもつけ・佐野 かみつが・足利
15	水							OTMオベ研 かみつが②		
16	木								農協監査上研修会①	
17	金				日本農業賞栃木県代表表彰式				JA巡回	はが野・おやま・なすの・なす南 ↓
18	土									
19	日									
20	月									
21	火		生産履歴システムオムベ研修 広瀬トップセミナー							
22	水		青年部ホリデーグループ意見交換会			税務申告相談会(1班) うつのみや、かみつが しもつけ、佐野、足利		OTMオベ研 かみつが③		はが野・おやま・なすの・なす南 しおのや
23	木									
24	金									
25	土						JAかみつが端末移設			
26	日							JAかみつが統廃合処理		
27	月					税務申告相談会(2班) はが野、おやま しおのや、なすの、なす南		購買オベ研①		
28	火									
29	水			直方所診断結果報告会 (うつのみや)						
30	木	臨時総会				税務申告相談会(子会社) かみつがサービス他6社				
31	金									期末監査(3/31~4/17) うつのみや・しもつけ

# 平成29年4月主要行事予定表

日	総務企画部	担い手サポートセンター	農業くらし推進部		経営指導部	電算企画運用部	電算開発部	教育部	全国監査機構 栃木県監査部
			農業ライン	くらしライン					
1 土									
2 日									
3 月									しもつけ・うつのみや 佐野
4 火	経営会議					青果物オベ研①			足利
5 水									かみつが
6 木						購買オベ研②			しおのや
7 金				女性会監査会-役員会-互選会					
8 土									
9 日									
10 月						麦オベ研①		新人職員業務基礎研修会	しおのや
11 火	理事会-運営委員会等								かみつが
12 水						OTMオベ研 なす南①			はが野・なす南
13 木						購買オベ研③			おやま・なすの
14 金						OTMオベ研 なす南②			
15 土									
16 日									
17 月						青果物オベ研②		農協監査士研修会⑤	おやま・なすの
18 火									
19 水									
20 木	農政懇談会					購買オベ研④			
21 金								支所-支店長研修会(新任)	
22 土									
23 日									
24 月						共済オベ研①			期本審査会
25 火						共済オベ研②			審査結果報告(15:30予定) (監査報告書JA発送予定)
26 水				A栃木女性会総会					
27 木						麦オベ研③			
28 金								農協監査士研修会④	
29 土									
30 日									

